

東日本大震災 宮城県放射線技師会第2支部ニュース

No. 2 2011.5. 発行責任者 本館 広樹

仙塩病院の被災状況報告

第2支部管内では多賀城市桜木にある「仙塩総合病院」が甚大な被害を受けました。今回はそのレポートをお伝えします。

= 1時間後に津波が港側からと砂押側を乗り終え来襲 =

地震発生から約1時間後、仙塩総合病院を津波が襲いました。幸いにも患者様、職員の皆様は無事でしたが、津波来襲までの短い時間の中、医療機器や機材の移動も行いましたがその多くが間に合わず、地階、1階が大きな被害を受けました。特に放射線機器は天井レール式の一般撮影管球と手術室イメージ装置以外(CT、透視装置、ポータブル装置、骨密度測定装置)が津波被害に遭い使用不能となりました。



透視室 津波の傷痕が生々しく残っています



CT室 浸水は放射線室で1.5mでした



津波の水圧でCT室の引き戸は変形

= 震災後職員総力あげて不眠不休の闘い。電力回復は4月半ばようやく =

震災後の津波被害から仙塩病院職員総力あげて患者さんを守り、復旧に向けた取り組みが展開されました。被害を受けてから1ヶ月半以上電力が回復せず、地下の自家発電設備も浸水し、寒さと疲労との闘いが強いられました。放射線技師の皆さんも1ヶ月半以上、施設の掃除と後片付け、今後の復旧に向けた作業に明け暮れる日々が続きました。



海水が引いた後は大量の汚泥が...

= 一歩ずつ明るく前向きに =



頑張るスタッフの皆さん



院内保育所も大きな被害を受けました



今回、訪問させていただいて感じたことは放射線科スタッフの皆さん(横山技師長初め8名のスタッフ全員が技師会員です。震災では8名全員無事でしたが、横山技師長の自宅が津波で全壊の被害を受けています)がとても前向きに明るく取組まれており、スタッフ間の連帯感の強さを感じました。5月連休明けから放射線機器もCT、一般装置、透視装置が稼動し始めています。また、私自身の率直な反省点としては「もっと早く訪問すべきだった」ということです。改めて日頃のつながりの大切さを痛感させられたと同時に、今後宮城県技師会として被災施設、会員の実情を踏まえた支援活動についての早急な具体化が必要と感じました。